

平成29年度第6回
旭市学校のあり方検討委員会会議録

1 期 日 平成30年1月30日（火） 開会 午後6時30分
閉会 午後8時15分

2 場 所 海上公民館1階第一研修室

3 出席者

会	長	伊藤	啓子
副	長	齊藤	勝弘
委	員	岩井	憲一
委	員	平野	一男
委	員	石橋	敬弘
委	員	加瀬	栄一
委	員	嶋田	太郎左工門
委	員	島田	昌信
委	員	林	仁志
委	員	高野	英之
委	員	山角	健一
委	員	向後	依明
委	員	富田	貴子
委	員	向後	和保
委	員	小沼	加代
委	員	小関	三枝子

教 育 長	諸持	耕太郎
庶 務 課 長	栗田	茂
学校教育課長	佐瀬	史恵
庶務課副課長	多田	英子
学校教育課副課長	仲條	義治
学校教育課主幹	鈴木	益実
学校教育課主幹	宮内	智明
庶務課施設班副主幹	来栖	慎一
庶務課施設班主査	亘	隆男

4 開 会

・伊藤会長

ただ今より第6回旭市学校のあり方検討委員会を開催させていただきます。開会にあたりまして、はじめに教育長よりご挨拶をお願いします。

5 教育長あいさつ

皆さんこんばんは。事務局を代表いたしまして一言ご挨拶させていただきます。本日はお忙しい中、第6回旭市学校のあり方検討委員会にご出席いただきまして誠にありがとうございます。委員の皆様には、平成28年7月の第1回会議から、旭市の将来を担う子どもたちにとって望ましい教育環境とは何かを第一に考え、適正規模・適正配置について様々なご意見をいただいていたところでございます。

本日は、それらのご意見を踏まえ、事務局が提言書(案)をまとめさせていただきました。

この提言書(案)には、これまでの経過がわかるように児童生徒数の推移や教職員アンケート結果及び皆様からのご意見など、会議での検討資料についても、一部掲載させていただいております。

そして今後、将来の旭市の学校について、更なる教育環境の整備について検討を進めることになった際には、本提言内容を踏まえ進めてまいりたいと思っております。

詳しい提言(案)の内容につきましては、この後、事務局から説明をさせていただきます。また本日は、提言書の内容について、委員の皆様から忌憚のないご意見をいただき、修正等も含めて、合意をいただけたらと思っております。どうぞよろしくをお願いします。

6 検討事項

・伊藤会長

ありがとうございました。

本日は、これまで私たちが検討してきたものを提言書(案)として事務局がまとめてくれました。事前に配布されていますので、みなさん内容はご確認いただけていると思います。

今回の会議は、提言書(案)の内容について、意見交換を行い、提言書の合意形成ができればと思っております。修正も含めてたくさんのご意見をお願いしたいと思います。

そして、みなさんにお諮りします。

大きな修正が無く、その修正について了承いただけた場合には、この会議をもって検討委員会を完了したいと考えております。

また、どうしても意見がまとまらない場合については、もう一回会議を開き再検討することとしたいと思います。みなさんよろしいでしょうか。

・委員

異議無し

・伊藤会長

それでは、次第の3検討事項の(1)の提言書(案)について、事務局より説明をお願いします。

・庶務課亘主査

それでは、提言書(案)の説明に入らせていただきますが、その前に訂正箇所がございますのでご説明させていただきます。

- ・資料4ページの差し替え
- ・「子ども」、「子どもたち」の統一した表記へ訂正
- ・16ページ①「学級編成」を「学級編制」へ訂正
- ・18ページ「平成28年度5月現在」を「平成28年5月現在」へ訂正

それでは、提言書(案)の内容についてご説明させていただきます。

まず、提言書の題名についてですが、「旭市立小・中学校の将来を展望したあり方について」、副題としまして「～適正規模・適正配置について～」としております。1枚めくっていただきますと、目次となります。構成としましては、まず、「はじめに」から始まり、以下「1旭市の児童生徒数及び学級数の推移について」、「2各学校の利点と課題について」、「3学校の適正規模について」、「4学校の適正配置について」、「5委員会としての提言」、最後に「おわりに」の文章で結んでおります。

また「付属資料」として、別冊にて

- 旭市学校のあり方検討委員会設置要綱
- 旭市学校のあり方検討委員会名簿
- 旭市学校のあり方検討委員会開催経過
- 児童生徒数の予測（平成29年5月1日現在）
- 小学校、中学校学区図

を添付する形となっております。

それでは、まず1ページ目の「はじめに」をご覧ください。読み上げます。

(1ページ読み上げ)

続いて2ページをご覧ください。「1旭市の児童生徒数及び学級数の推移について」になります。これは現在の児童生徒数及び学級数と平成34年度までの予測等を説明した資料であり、2ページから5ページまでが(1)として「児童生徒数の推移」を、6ページから7ページ中段までが(2)として「学級数の推移」を説明した資料で、第2回会議で使用した資料となります。

続きまして7ページ中段をご覧ください。「2各学校の利点と課題について」になります。「下表は、市内小・中学校の校長である委員から各学校の利点と

課題についての現状を発表いただき、その内容をまとめたものである。」として、第2回会議で使用した資料を載せております。これが7ページから9ページまでとなります。

続いて10ページをご覧ください。「(参考)小規模校の学校規模に伴う利点と課題」とあります。「下表は、検討の参考とするため、文部科学省の「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引」より、小規模校の学校規模に伴う利点と課題を一部抜粋したものである。」として、主な利点と課題を抜粋したものを載せております。

次に11ページをご覧ください。「3学校の適正規模について(1)適正規模に関する教職員アンケートについて」とあります。「本委員会において、学校の適正規模を検討する上での参考とするため、現場の教職員が学校の規模について、どのような意見を持っているかを集約する目的で、市内小・中学校の全教職員を対象に以下のとおりアンケート調査を行った。」として、第3回会議で使用した資料を載せております。これが11ページから17ページとなります。

次に18ページ、19ページをご覧ください。「(2)中学校の部活動の状況について」は、「平成28年5月現在の部活動の状況が以下の表となるが、学校の規模によって部活動数に違いが出ていることがわかる。部活動数については、第一中学校が9、第二中学校が17、海上中学校が9、飯岡中学校が11、干潟中学校が7である。生徒数の減少に伴い、部活動数が減ってきている学校もある。」と説明を加え、以下に第3回会議で使用した資料を載せております。

次に20ページをご覧ください。第3回会議では、小・中学校の適正規模について検討いただきましたが、適正規模を検討するに至った経緯から結論に至るまでの説明文として、(3)では「適正規模の検討の必要性について」の説明、その下の(4)では「小・中学校の望ましい適正規模について」の説明を記載させていただきましたので、読み上げさせていただきます。

(20ページ読み上げ)

次に21ページをご覧ください。「4の学校の適正配置について(1)小・中学校の配置状況、通学距離について」になります。ここからは適正配置に係る説明に入ります。ここでは第4回会議の適正配置の検討の中で使用したパワーポイントによる資料を載せてございます。これが21ページと22ページになります。

次に23ページをご覧ください。「(2)適正配置に関する意見について」とあります。「第4回会議では、小・中学校の配置状況、通学距離、近隣自治体の取組状況などを参考としながら、旭市においての小・中学校の適正配置についての検討を行った。下表は会議での意見をまとめたものである。」として、第5回会議で使用した第4回会議での意見を載せております。これが23ページから24ページまでになります。

次に25ページですが、第5回会議での意見をまとめたものを記載してございます。これは、今回作成したものですので、読み上げさせていただきます。

(25ページ～26ページ読み上げ)

次に27ページをご覧ください。「5委員会としての提言」になります。この27ページから28ページが、今までの会議内容や意見を踏まえ、重要と思われる内容を提言(案)としてまとめたものとなります。読み上げさせていただきます。

(27ページ～28ページ読み上げ)

ここで1点、ご説明させていただきます。28ページの1行目の文章についてですが、「また、学校施設の老朽化等に伴う改修や建て替えが必要になる時期などにも考慮し、総合的に判断しながら進めていくことも必要である」と記載させていただきました。会議の中では、あくまでも子どもたちへの教育効果を第一にとの見地から、施設改修等の検討まではしておりませんが、建物には耐用年数があり、いずれは大規模な改修や建て替え等の検討が必要となる時期が来ます。こういった情報も視野に入れ総合的に判断していくことが必要であると思われるため、この一文を入れさせていただきました。

最後に28ページの「おわりに」の文章になりますが、提言書の結びの文章として作成しました。読み上げます。

(28ページ読み上げ)

次に提言書の添付資料についてご説明させていただきます。別冊となっております資料をご覧ください。

1ページ、2ページが「学校のあり方検討委員会の設置要綱」、3ページが委員名簿となっております。この名簿では、平成29年4月1日に委員がお一人代わっておりますので備考欄に委嘱期間を記載し、計19人の委員名簿となっております。

次に4ページですが、旭市学校のあり方検討委員会会議開催経過として今までの会議の開催日、会議内容をまとめたものです。

次の5ページ、6ページが平成29年5月1日現在の児童・生徒数の予測の資料、7ページ、8ページが市内小・中学校の学区図となります。

説明は以上となります。

・伊藤会長

ありがとうございました。只今、事務局から説明がありましたが、皆様からご質問、ご意見をいただきたいと思います。いかがでしょうか。

教育委員会に対し、私たち検討委員会の名で提言を行うという点で、とても責任のあることですので、文言ひとつをとっても、お気づきの点はおっしゃっていただいて検討していくことが大事でありますので、是非小さなことでも結構ですので、よろしくお願ひしたいと思います。いかがでしょうか。

・委員

よろしいでしょうか。まず表紙のタイトルについてですが、「旭市立小・中

学校の将来を展望したあり方について」、サブタイトルとして、「～適正規模・適正配置について～」とありますが、上のタイトルの部分が少しわかりづらいのではないかと思います。これを「将来を展望した旭市立小・中学校のあり方」で切って、サブタイトルとして「～適正規模・適正配置について～」とすればわかりやすいのではないかと思います。

それと細かいところですが、20ページの(3)の9行目の「充実に向けた取り組み」の「取り組み」ですが、活用がないので、ひらがなは要らないと思います。それから(4)の4行目の「望ましい適正規模を下記のとおり設定した」とありますが、「以下のとおり」や「次のとおり」とした方がよろしいのではと思います。

それから、先ほどの差し替え資料の4ページについてですが、「旭市学校のあり方検討委員会会議開催経過」とありますが、提言書目次の附属資料の箇所を見ますと「旭市学校のあり方検討委員会開催経過」とあり若干違うので整合性を取った方がよろしいのではないかと思います。それと25ページですが、小・中学校の適正配置について、中段から少し下の箇所に「中学校で単学級という適正規模の4分の1であり」とありますが、適正規模が中学校では4～6学級ですので、「適正規模の下限の4分の1」とした方が明確であると思います。以上です。

・伊藤会長

ありがとうございました。今ご指摘の点については、全て修正でよろしいですか。

・委員

異議無し

・伊藤会長

事務局いかがでしょうか。

・事務局

ご指摘のとおり訂正させていただきます。

・伊藤会長

他にはございませんか。

・委員

それでは、2点ございます。これは皆様と検討していかなければならないことを含めて話をさせていただきます。提言の部分が一番最後にありますが、とても良くまとめていただいて、我々が今まで5回真摯に話し合ってきたこ

とを良くまとめていただいているという印象を受けましたが、この提言部分を「はじめに」の次に持ってきて、つまり提言書が先にあり、それはこういった経過を経てまとめましたという形の方が、インパクトがあるのではと感じたところです。どこにもってくるのがよいかについては、色々と意見があるのかも知れませんが、どういう考えの基にこの委員会が開かれたのかということが、はじめに書かれていて、次に提言があつて、その提言はこういったことから導き出したものですよという順序になった方が良いのではないかと個人的には感じたところです。それが1点目です。

それから2点目は、10ページについてです。これは文部科学省で出されている手引の抜粋であるため、書体を変えてはどうかと思います。これ以外の資料については、検討委員会独自のものであったり、ここでの意見が集約されたものであったりということが明朝体で書かれていますので、書体を変え、これは別ものとして、国の資料であることを、目で見ても区別が分かるようにしてはいいかがかなと思いました。

また、関係がないかも知れませんが、資料についてです。我々の要求に応じ、いろいろな資料を用意していただいて良かったと思いますが、全体をよく読んで考えましたが、児童生徒数の推移については、旭市が平成になり合併してからの学校規模の推移になります。いわゆる教育改革、戦後の教育改革があった後、飯岡小学校を例にすると、伊藤会長が入学した頃が、飯岡小学校が最大の規模でありました。今は二百数十人しかいませんが、そのころは千数百人の児童がいました。例えば、そういった経過のグラフの資料があつてもいいのではないかと感じました。多くの方がこの資料を見たときに、旭市の学校は、以前はこんなに大きかったのか、そういえば、子どもが少子化で少なくなって学校の規模もこんなに変わったのかということが、検討していく根底に実はあるということが読み取れる資料があつても良いのではないかと感じました。これは感想ですが、もし可能であれば、多くの市民が見た時に、よりわかりやすいのではないかと感じました。

・伊藤会長

ありがとうございました。3点のご意見をいただきました。

1点目が、提言を前に持って行ってはどうか。2点目が、文部科学省の引用は書体を変えてはどうかというご意見でした。皆さんいかがでしょうか。

・委員

異議無し

・伊藤会長

もう1点、児童生徒の推移の資料について、児童数がもっと多かった時代まで遡った資料を付けてはどうかという意見でしたが、今回新たに提案されたご

意見で、入れることが可能かどうか、事務局いかがでしょうか。

・栗田課長

データを確認したいと思います。確認した上で検討させていただきたいと思います。

・伊藤会長

それでは事務局に確認をお願いしたいと思います。他にはいかがでしょうか。

・委員

先ほどの委員さんのご意見にかかわってきますが、10ページに文部科学省の資料がありまして、その小規模校の課題の8行目に「子供」という表記となっていますが、先ほど事務局より「子ども」という表記へ統一する説明がありましたが、どちらかに統一した方が良いのではないかと思います。

・伊藤会長

子どもの表記をどちらかに統一してはどうかということですが、事務局いかがでしょうか。

・庶務課栗田課長

こちらのページにつきましては、文部科学省の文章の引用でありますので、引用のとおり「子供」の「供」は漢字で表記させていただきたいと思います。他の部分については、ひらがなで統一させていただきたいと思います。

・伊藤会長

その他はいかがでしょうか。

・委員

27ページの提言の中で、【適正規模について】の1行目、「小学校においては、多様な考えを持つ児童生徒が出会い」とありますが、小学校についてですので、生徒は取った方がいいと思いますが。

・伊藤会長

事務局いかがでしょうか。

・庶務課亘主査

ご指摘のとおり、小学校についてですので、生徒を削除し、児童のみの表記に訂正させていただきます。

・委員

あともう一点ですが、この提言がまとまれば、この委員会は提言書を提出して終ることになると思いますが、いずれ再編等をするための新たな委員会ができると思いますが、次の委員会がどういった状況となった時に始めるのか、そういったことが提言のどこかに書かれていた方が良いのではと感じました。

・伊藤会長

今回、この学校のあり方検討委員会は、提言書を提出して終ることになりますが、その後のグランドデザインとでもいいますか、この委員会が終った後のことが知りたいのだと思いますが、それらを提言の中に盛り込むことについては皆さんいかがでしょうか。おそらく今後、地域の実情等、様々な課題が出てきて、実際、具体的に進めていくとなると、多くの人の知恵を出し合って話し合わなければならないと思いますが。

事務局に伺ってよろしいでしょうか。

・委員

もう少し補足させていただいてよろしいでしょうか。提言の中では、小学校の適正規模、中学校の適正規模はこうです、委員会としてこう考えると謳っています。しかしながら旭市内には、小学校が15校中1校、中学校においては適正規模の学校は存在していないと言っている。適正規模がわかり、存在していないところまでおさえているが、ではどうするのが疑問としてある。この先何年後にこうなった時には見直す、次の委員会を発足させるなど、そこまで触れておいた方が、良いのではないかという考えです。

・伊藤会長

では、事務局いかがでしょうか。

・庶務課栗田課長

提言の下の部分に【今後の適正規模・適正配置の検討を進めるにあたって】という箇所がございます。「小学校での複式学級及び中学校での単学級は存在しないが」と書き出しにございますが、前回の検討委員会の中で複式学級及び単学級が発生することが予測された場合には、検討をしていく等のお話もありました。次の行に書かれておりますが、「中長期的な児童生徒数の詳細な将来予測の調査を実施し」というところで児童生徒数の将来予測を把握した上で、複式学級や単学級が見えてきた場合には検討していきたいとは考えていますが、少しわかりづらい文章となっております、少し修正をした方が良いのかなとは思っています。

・伊藤会長

27ページ下のところに、それにかかわる文言があるわけですが、少しわかりにくいのではないかと。今後の見通しが持てるような形で、改めた方がよいのではないかと。ご意見ございませんか。

中長期的な児童生徒数の詳細な将来予測の調査を実施して、どうやら複式学級が発生してしまいそうだという頃には、改めて検討委員会のような委員会を設けるということですね。

・庶務課栗田課長

はい。

・伊藤会長

これらのことについて、ここで文章をどうこうというよりも、事務局にもう少しわかりやすく検討していただくということで残してよろしいでしょうか。

・庶務課栗田課長

それでも構いません。このように直してほしいということであれば、そのようにいたします。

・委員

今の内容に関連しまして、中長期的な予測をした上でとありますが、先ほど事務局より説明のあったハード面、次のページに施設の老朽化について触れています。これについては、今までの検討委員会の中で施設の老朽化の度合、建替、改修のタイミングというものはまだ見えていません。そういう中で、今のような中長期的な予測のもとで進めていくということであれば、今回追加した学校の老朽化については、同じ行のところに並べておいたほうが良いのではないかと思います。建替えのタイミングがもうすぐに迫っているということではないと捉えておりますが、タイミングが見定められるような表記にした方が良いでしょう。

・伊藤会長

具体的にこういう形で将来展望について書き入れてほしいというご意見がありましたらお願いします。

・委員

検討を始める時期についてですが、ある近隣市では暮れの議会で決定し、平成30年4月からということで、さんざんもんで、最終決定してから最終的な統合まで4年かかるそうです。さらにその前に平成23年頃からだったと思いますが、再編検討委員会を始めています。何が言いたいかということ、例えば、

10年後に単学級になってしまうとわかった場合、10年前からのスタートで委員会を立ち上げて間に合うのかということです。その時期的なものを少し盛り込んだ方が良いのではないかと思います。検討を始めてどのぐらいの年月がかかって実際の統合が可能となるのか、その辺を踏まえて、スタートすべき時期をある程度把握した方が良いと思う。ただ、その文言をここに明確に入れるかどうかは協議していただく必要があると思います。それをつかんでおかないと、実際に統合が必要となった時、動き出しが遅くなってしまうことも危惧されます。

・伊藤会長

今後は、専門の調査によって将来予測を出し、ある程度将来のことがはっきりして来ると思いますので、それらの結果を踏まえ、おそらく次の検討委員会を立ち上げなければならないと思いますが、今のご意見についてはいかがでしょうか。

・委員

私はこの学校のあり方検討委員会の委員になるお話をいただいた時に、ホームページに掲載されている旭市総合教育会議の資料をプリントアウトして全部読み直しました。その中で、市長さんが「今から10年後、15年後にどのような学区編成で行くのか検討していただきたいと思っている。」とおっしゃっている。つまりこの会議でそういうことを性格付けされています。それから「旭市の学区全部を見直し再編をしないと住民の理解は得られないと思います。総合的なビジョンを検討委員会で2年ぐらい検討いただいて10年後、15年後に再編をしていく、その方向性を検討していただきたいと思っています。」ということで、我々はその方向性を検討してきたと考えています。3回目の総合教育会議の中で、これは教育委員会でチェックし、出しているわけですから、私が言うのも変な話ですが、そのやりとりの中で、他市町村の状況があって、例えばT町では、平成23年9月に検討委員会が設置され、平成32年4月に小学校を1校に統合することが2月の広報紙に出ているとあるので、そうすると実際にはおよそ9年かけて5校を1校に編成するというを進めているという話があります。様々な話の中で、「早くから方向性だけでも、学校のあり方検討委員会をつくってもらいたい。」、そして「さらにできれば、旭市では、何校ぐらいがいいのか議論してもらってもいいです。中学校は3校にしようとか、小学校は7校にしようとか、このぐらいで第一段階の検討としていかがでしょうか。」ということをして市長さんがおっしゃっています。我々はそこまではできませんでしたが、次の段階の委員会で議員さんを入れてなどの文言がこの中にあるわけですから、そういう考えを市の上層部がお持ちであると思いますので、我々はいつ検討を始めたらいいいのかという心配もしなくてはいけないのですが、しかし既にそういったことを

市の上層部がお考えで、教育委員会の教育委員さんが入った会議で述べられている訳ですので、そこに我々は提言をするという形で、それ以上のことは難しいのかなと私自身は考えます。

・伊藤会長

ありがとうございました。では今何人かの委員さんからご意見をいただきましたが、とても大事なことだと思います。ここで少し休憩時間を取りたいと思います。ここでお隣の委員さんとお話したりできる休憩時間を10分間取りたいと思います。

(休憩)

・伊藤会長

それでは会議を再開します。
先ほど委員からご意見がございました提言書28ページの学校施設の老朽化に伴う改修についての部分についてですが、この部分を27ページの【今後の適正規模・適正配置の検討を進めるにあたって】の2行目のところに入れてはとの事務局からの修正案をいただきました。ここに挿入する形でよろしいでしょうか。皆さん、肯いていただいているようですのでこのように修正することとします。

もう一点は、今後のランドデザインについて、私たちが気になりますし、市民の皆さんもそうであろうというご意見もありましたが、別のところで市の総合計画等で述べられているとのことですので、それについて本委員会としては、時期がいつだとか入れなくても良いのではとの意見もありましたが、それでよろしいでしょうか。

・委員

良いと思います。

・伊藤会長

それでは、皆さん、他にご意見等あれば、小さなことでも構いませんので、お気づきの点があればお願いします。

・伊藤会長

それでは、私から気づいた点をお話させていただきます。23ページの(2)の小・中学校の適正配置全般についての表の中になります。この下から2行目に「市街地と過疎地では」とありますが、20ページ6行目を見ると「市街地」と「その他の地域」という表記があります。過疎地という表現が気になったので「その他の地域」としてはどうかと思いましたがどうでしょうか。「その他

の地域」に訂正でよろしいでしょうか。

・委員

よろしいかと思えます。

・伊藤会長

それから22ページの下から5行目の「バランスを欠いていることが見れる」とありますが、「見られる」に訂正でよろしいでしょうか。その他に、皆さん何かございませんか。

・委員

細かいことになりますが、22ページの上から4行目、「海上中学校については」、「て」が抜けております。それから11ページになりますが四角の中に「旭市市内」とありますが、「旭市内」とどちらが良いのかなと思いました。

・伊藤会長

それでは、「市」を一つ削除して、「旭市内」としてください。

・委員

言うまでもないかも知れませんが、提言書のタイトルが変わることによって、その文言がリンクする所がいくつかありますので、そこも訂正する必要があります。例えば1ページの下から3行目、27ページの最初の行、他にあれば同様に訂正が必要かと思えます。

・伊藤会長

ありがとうございます。それでは他にリンクする箇所があれば、事務局の方で同様に訂正をお願いします。他にはお気づきの点ございませんか。

・委員

よろしいでしょうか。「学校をつくる」という表記がひらがなと漢字が混在しておりますので、どちらかに統一した方が良いと思えます。25ページの下から3行目はひらがなです。

・伊藤会長

「学校をつくる」の表記で他にお気づきの箇所があれば教えて下さい。

・委員

今のページの4行目、その3行下にもあります。

・伊藤会長

事務局で検索をかけてもらえれば確認できますね。これはどちらの表記としますか。どちらがよろしいでしょうか。ひらがなに統一でよろしいですか。それでは、ひらがなに統一とします。

・伊藤会長

それから、今から修正可能かどうかわかりませんが、25ページの中段に「学校規模の課題を明記してほしい」というご意見がありますが、それを考えると8ページの、具体的には中和小学校の課題の欄ですが、本当に一生懸命にやっけていただいていることがわかりますが、課題は課題のみで明記しておいた方が良いと感じました。検討した会議資料をそのまま載せておりますが、例えば「クラス替えができないことで、人間関係が固定化してしまうことは否めない」という課題がありますが、それを克服するための学校での努力していただいていることが書かれているので、将来、課題は課題としてはっきりしていた方が、後から見る皆さんにとっては、わかりやすいのではないかと思います。課題はあるがこう工夫していますということであると、問題がないという感じを受けられてもいけないので、将来のことを考えると、課題だけに絞った方が良いと感じましたが、いかがでしょうか。

・委員

そのように訂正できればと思います。

・伊藤会長

では、直し方はどういたしましょうか。これは当学校で整理してもらい、事務局でその修正内容の確認をってもらう形でよろしいでしょうか。

・委員

その形をお願いします。

・委員

よろしいでしょうか。1ページ目の「はじめに」の中段より少し下に「このようなことから、平成28年7月20日に「旭市学校のあり方検討委員会」を設置し」云々とありますが、この文章を作成している主体が学校のあり方検討委員会であるため、しっくりしない感じがあります。この感じは皆さん伝わりますか。

・委員

わかります。

・伊藤会長

それでは、学校のあり方検討委員会が記す「はじめに」に合う形で、事務局に訂正していただく形よろしいですか。

・庶務課亘主査

訂正いたします。

・伊藤会長

先ほど事務局から説明がありましたが、「子どもたち」の表記の統一の説明で13ページ下から2行目の「子ども達」の箇所はおっしゃいましたか。

・庶務課亘主査

すみません。先ほどの説明では、抜けていましたので、この箇所についても訂正させていただきます。

・伊藤会長

そろそろ、皆さん、意見は出し尽くしていただいているでしょうか。いかがでしょうか。

それでは、他には無いようですので、本日のご意見で修正が必要な箇所については、事務局で修正をしていただきます。また事務局で文言を修正しなければならない箇所もございますが、その修正内容の確認については、いかがいたしましょうか。修正後の確認についてです。事務局より何か案はございますか。

・庶務課亘主査

修正後の確認方法として2通り考えられます。委員全員に集まっていたいただき確認していただくか、もう一つの案としまして、会長・副会長に一任していただき、確認していただく方法がございますが、いかがいたしましょうか。

・伊藤会長

ありがとうございます。修正の確認方法として2通りの事務局案がございました。全員集まり確認するか、一任を受けて会長・副会長が確認するかです。では挙手をしていただきたいと思います。全員が集まって確認した方がよいと思う方は挙手をお願いします。では代表で会長・副会長に一任したいという方は挙手をお願いします。

・伊藤会長

それでは、皆さんのご意見を伺いまして、修正確認については、会長・副会長一任で確認させていただくこととします。副会長、よろしいでしょうか。

- ・ 齊藤副会長

はい。

- ・ 伊藤会長

それでは、他に事務局ございますか。

- ・ 庶務課亘主査

それでは最後に次第の4、その他で、提言書の教育委員会への提出方法についてお諮りしたいと思いますのですが、どのような形がよろしいでしょうか。

- ・ 伊藤会長

修正が終り、会長・副会長が確認した後の最終的な提言書についてどのように教育委員会に提出するかについてです。何かご意見はございますか。

- ・ 庶務課亘主査

特にご意見が無ければ、事務局案として、会長・副会長に一任いただき代表して教育委員会へ提出いただく形でいかがでしょうか。

- ・ 委員

よろしく申し上げます。

- ・ 伊藤会長

それでは事務局には、日程調整をお願いしたいと思います。修正後の確認と最終的な提言書を提出する日程の調整になります。他にございますか。

- ・ 諸持教育長

それでは、最後にお礼の気持ちを込めてご挨拶させていただきます。

本日はお忙しい中、長時間にわたっての慎重審議、誠にありがとうございました。最後の会議でも大変貴重なご意見をいただきました。今後、次の検討会議を進めていく際には、この提言書を活かし、更に検討を進めていきたいと考えております。そして中長期的な児童生徒の詳細な将来予測調査につきましても検討を進める上で重要な部分でありますので、早期に実施して参りたいと思っております。また委員の皆様におかれましては、今回の第6回会議までの1年半にわたって本当にご多忙な中、時間を割いてご協力いただきまして誠にありがとうございました。将来の学校のあり方については、地域の中でも今後大きな話題となることと思っておりますが、市及び教育行政に対してご理解、ご協力を引き続き賜りますようお願い申し上げますお礼の挨拶とさせていただきます。

本当に長い間ありがとうございました。

・伊藤会長

ありがとうございました。それでは以上で閉会とさせていただきます。皆さん全6回、約2年間にわたる長い期間でございましたが、ご検討いただきましてありがとうございました。それでは閉会といたします。

7 閉 会